

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大4細胞/ml確認されました。

また、柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水においても、アレキサンドリウム属が小筑紫中央で0.01細胞/ml確認されました。当該プランクトンは、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属
	(m)	(℃)		(mg/L)		
A 藻津 (-/36.3m) 【09:12】	0	17.7	34.3	8.0	0	0
	2	17.7	34.4	7.9	0	0
	5	17.8	34.5	7.8	0	0.02
	8	17.8	34.5	7.5	0	0
	★ 10	17.8	34.5	7.4	0	0
	15	17.9	34.6	7.1	-	-
	20	17.9	34.6	7.0	-	-
B 大島中央 (-/31.3m) 【09:22】	0	18.0	34.6	7.5	0	0
	5	17.9	34.6	7.5	0	0
	★ 10	17.9	34.6	7.5	0	0
	15	17.9	34.6	7.5	-	-
	20	17.9	34.6	7.4	-	-
C 小筑紫中央 (-/50.9m) 【09:31】	0	18.0	34.6	7.1	0	0
	5	18.0	34.6	7.0	0	0
	★ 10	18.0	34.6	7.0	0	0
	15	18.0	34.6	7.1	-	-
	20	18.1	34.7	7.2	-	-
D 栄喜奥 (-/14m) 【09:49】	0	18.3	34.5	8.0	0	4
	★ 5	18.1	34.4	8.0	0	0
	10	18.0	34.6	7.0	0	0
E ヒロウラ (-/26.3m) 【10:10】	0	17.4	33.0	8.0	0	3
	2	17.9	34.4	7.9	0	0.16
	5	18.1	34.5	8.1	0	0.95
	★ 10	18.0	34.5	7.5	0	2
	15	18.0	34.6	7.3	-	-
	20	18.0	34.6	6.8	-	-
F 青瀬山 (-/16m) 【09:57】	0	17.5	33.1	7.7	0	0
	5	18.2	34.5	8.1	0	0
	★ 6	18.1	34.6	7.9	0	2
	10	18.0	34.6	7.3	0	0
	15	18.0	34.6	6.8	-	-

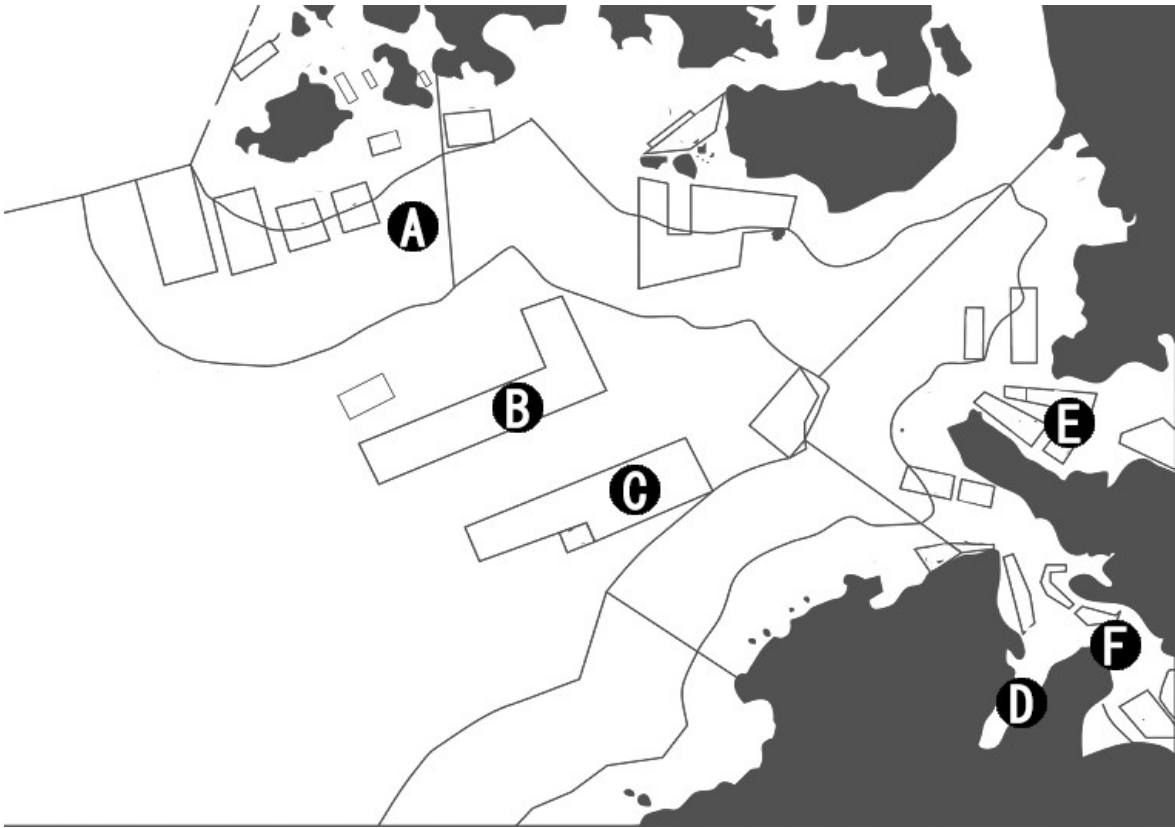
クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、2m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



A: 藻津 D: 栄喜奥
B: 大島中央 E: ヒロウラ
C: 小筑紫中央 F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> （カレニア・ミキモトイ）	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. （シャットネラ属）	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> （コクロディニウム・ポリクリコイデス）	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> （ヘテロシグマ・アカシオ）	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. （ディクチオカ属）	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. （タカヤマ属）	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> （ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ）	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. （アレキサンドリウム属）	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> （ギムノディニウム・カテナータム）	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。